

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	皆尾 賛
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 国語科教育における価値目標論の形成と展開に関する研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教 授	山元 隆春	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	間瀬 茂夫	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	佐々木 勇	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	難波 博孝	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	吉田 成章	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、国語科教育における価値目標論の形成と展開を探究し、価値目標論の意味を、主として「読むこと」の教育を中心に、①価値目標論はどのような文脈でどのように形成されてきたか、②価値目標論は国語科教育の進展の中でどのように同世代の国語科教育に影響を与えたのか、③国語科教育において価値目標論とはどのような意味をもっていたのか、という三つの問題の解明を目指した論文である。</p> <p>序章では、本研究の目的・方法・意義を述べた。</p> <p>第一章では、日本戦後の国語科教育において興水実によってどのような経緯で価値目標論が提唱されたのかということ进行を明らかにした。</p> <p>第二章では、1960年代の読解指導重視の国語科教育のなかで生まれた、興水によって衝動された「機能的国語教育論」のなかで価値目標がどのように扱われ、その上で「基本的指導過程」の提唱に向かったのかということ进行を検討した。</p> <p>第三章では、昭和33年学習指導要領で特設された「道徳の時間」と価値目標論との関係を探った。</p> <p>第四章では、1960年代から1970年代にかけて「読むこと」の指導過程論を提唱した教育科学研究会国語部会及び児童言語研究会という二つの民間教育研究団体が、興水の価値目標論に対して展開した批判の内実を検討した。</p> <p>第五章では、昭和43年学習指導要領で強調された「読書指導」と価値目標論との関係について考察した。</p> <p>第六章では、1970年以降の「言語の教育」としての国語科教育における価値目標論の位置づけを探り、教科における訓育的教授についての議論を踏まえながら、国語科における価値目標論のもつ意味を掘り下げた。</p> <p>終章では、研究の総括と今後の展望を述べた。</p>			

本論文は次の三点で高く評価することができる。

1. 日本戦後の新しい教育が始まって言語用具説や周辺教科論に対する疑念から教材内容の重要視を求める声が高まり、1953年を中心にして「人間形成」という概念が使われ始めた時期に、興水実が米国のグレイの所説の検討を契機として価値目標論を提起し、それが戦後日本の国語科教育が経験主義的教育から離陸し、教材中心主義的な国語科教育へと変化していくなかで広く受容された経緯を明らかにした。とくに「価値目標」が生まれた契機を解き明かしたことは国語科教育の歴史的研究として重要である。
2. 興水実の残した言葉をもとにその価値目標論の内実を捉えながら、その価値目標論が教育現場でどのように受容されたかということや、いかなる批判を受けたのかということを探った。「読解指導」や民間教育研究団体の主張、「道徳の時間」及び「読書指導」の考え方との関連を探ることによって、興水の価値目標論が、文章全体を読み取るという技能の保障を可能にしながらも、教師側の「読むこと」の授業づくりの思考習慣の形成に貢献した模様を探り、戦後から現在に至る国語科教育における価値目標論の果たした役割を明らかにした。
3. 戦後日本の国語科における価値目標論に焦点を当てることによって、国語科が何をどのように扱う教科であるのかという教科の根幹にあたる問題を検討し、国語科が言語を中心に扱いながらも言語のみを扱う教科ではないという認識が戦後の国語科教育・国語科教育論のなかで共有される過程を明らかにした。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 6年 2月 13日

備考 要旨は、A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)